

研究推進委員会通信

令和元年11月20日

11月18日(月)に本校で「探究」をテーマにした第3回授業研究会を開催しました。本授業研究会を開催するにあたり、大正製薬・クレディセゾン・メニコンネクト郡上工場・教育と探求社・郡上市民協働センター・郡上ロボットクラブ・HUB GUJOといった企業人ならびに地域の有識者の方を助言者としてお招きしました。また、郡上市教育委員会をはじめ、郡上東中学校・北濃小学校などの異校種の先生方に参観いただきました。

今回の助言者ならびに参観者からいただいた感想・ご助言を掲載したいと思います。



3団体がプレゼンし講評していただきました。



活気のあるポスターセッションでした。



ブラッシュアップタイムの時間を設けP D C Aを促しました。

ご助言ならびに感想

- ・小中学校での学びを理解しての指導はとても大切だと思います。小中学校も高校の学びを知るように考えていきたいと思いました。
- ・日頃の各教科の授業での取り組みや、今日の発表までの教員の関わりを示してもらえると嬉しい。
- ・生徒が明るい、前向きで負のオーラがない。地域の方にもっと知ってもらえるように広報して欲しい。
- ・3年間授業を参観させていただいていますが、地域が誇れる高校づくりの確かな歩みを感じています。
- ・聞く側も大切だと思います。発表者が困るくらいの質問が出ると良い。
- ・中学校のふるさと教育と高等学校の課題解決型学習の系統性を考えていく必要がある。
- ・中学校でも系統的に力をつけていく必要性を強く感じた。
- ・ふるさと教育とキャリア教育の両面が行われていると感じた。
- ・キャリア教育を高校生から学習できている点は社会に生徒が出られた時に、どんな困難や障がいでも乗り越える強い意志を育てることにつながると感じました。
- ・社会で重要になる「共に生きる力」「自立する力」を先生方も学ばれ、生徒に教えている。
- ・高校生でも修学旅行の中で企業訪問をしていただくことで、企業や社会がより身近に体感できると思います。
- ・企業と生徒の意見交流は、企業のニーズを学校側が理解することができるし、企業側もどのような教育を行っているかを学べる機会になり、お互いの発展になると思います。
- ・このような成果発表は、座学では学べない「発想や探究」の心を学ぶことができる良い機会になる。

「深い学び」については様々な議論がされてきていますが、「探究して自分なりの解釈をもつことが深い学びである」という方向性を感じています。本授業研究会は各授業で学んだ学習の成果を発揮する場として設定しました。ぜひ、新学習指導要領のキーワードである「探究」を授業へ導入してみてください。